

令和6年度第1回佐世保市子ども・子育て会議分科会(施策3) 議事録(要約版)

日時: 令和6年8月8日(木)13時55分~15時30分

場所: 佐世保市市役所 本庁舎4階第4委員会室

議事(1)次期「させぼっ子未来プラン」の策定について	
議事(2)次期「させぼっ子未来プラン」策定に向けた佐世保市の子どもと子育てを取り巻く現状と課題	
質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
<p>今回の説明を受けて、子育て政策については、全体的には質の向上にシフトされていると見受けました。</p> <p>一方で経済界、子どもの親の世代が働いている環境について、2024年問題が非常に大きな影響を与えており、特に建設業や運輸業は、人手不足・残業ができない等の制約を受けている現状がある。</p> <p>また、経営者側も、景気がなかなか上向かない厳しい中で、人手不足を勘案しながら対応しているところである。</p> <p>アンケートの中には、「働き方」に加えて、補助金・手当が必要という文言があり、それは親の立場からするとその通りだと感じる。</p> <p>働いてもなかなか給料が増えない、といった現状を踏まえ、各幼稚園、保育園における質の向上は当然だが、大胆な予算配分ということも行っていくべきであり、必要な施策というものもプラスしながら、検討を進めていただきたい。</p>	<p>事務局回答・今後の方針など</p>
<p>資料6に記載された課題として、「認可外保育施設における保育の質の確保」と記載されているが、現在、佐世保市において、認可外保育施設は存在しているのか、また、認可保育施設の質の確保・向上はしなくてもよいのか。</p> <p>アンケート結果から、母親の就労の状況で、フルタイムでの就労希望者数が上昇したということだが、その裏側には経済的不安があり、その分、働いて収入を得たいという気持ちがあるのではないかと。</p> <p>本当にフルタイムで働きたいのか、収入、経済的不安があるからフルタイムを希望せざるを得ない、手当等の支給により、経済的な不安がない場合、どれだけ就労したいのか、といった設問・集計が必要であったのではないかと。</p>	<p>保育施設の全体の質の向上というのは、認可・認可外に関わらず、取組が必要だと考えている。</p> <p>認可外保育施設を課題としてあえて挙げているのは、アンケートの中での意見等もあったためである。</p> <p>市内における認可外施設は、病院、施設、事業所内、その他、幼稚園型認可子ども園に併設された保育所などに存在する。</p> <p>今回実施したアンケートにおいて、フルタイムを希望される理由について設問がなかったため、本市の実態としては掴めていないが、全国的には、女性も、結婚後も継続して就労し、スキルを上げたいという傾向が表れており、経済的理由、女性としての自立という両方の側面があると認識している。</p>

<p>大胆な予算の確保をし、質の確保と子育て支援の充実をしっかりと図っていただきたい。</p>	
<p>資料6「医療的ケア児の受入れ」との記述があるが、これは、「病気をされた子ども」という解釈なのか、「常時、医療的対応が、必要な子ども」ということなのか。</p>	<p>「日常的に医療的な対応が必要な子ども」の受入れのことである。</p> <p>日常的に医療的ケアが必要なお子様が、保育園等を利用された際に、施設に対し、看護師の配置や派遣に対する支援として施策を展開している。</p>
<p>他市においては、子育てサポーターとしての研修を受けて、例えば、お子さんの送迎を代わりに対応し、その際の実費が支給されていると伺った。</p> <p>また、支援をしている家庭の状況によっては、母親の代わりに、お子さんの送迎だけでなく、サポーターの家でご飯を食べさせたり、お風呂を入れることまでやっているそうだ。</p> <p>この自治体では、孫を育てるような世代の人を対象にした研修を実施し、支援者を養成しているようだが、佐世保市ではこのような取組は実施しているのか。また、市として取組を充実させていくというような考えはあるか。</p>	<p>同等の事業として、佐世保市では、ファミリーサポートセンター事業を実施している。</p> <p>本市の当事業は、長く実施しており、事業サービスを提供する提供会員の養成講座を、ファミリーサポートセンターにおいて、定期的実施している。</p> <p>また、事業の取組内容については、母子健康手帳交付の会場や、民生委員児童委員協議会等においても、案内している。</p>
<p>自分たちが今住んでいる地域が、なるべく住みやすい街になっていき、なおかつ、そこに住む、次の世代の人たちが、望んで住んでくれるようなまちになることをみんな目指しているいと活動を行っている。</p> <p>その中でも若い方たちが、ぜひここに住みたいと思ってもらうためには、地域での子育てと、保育所等の施設及び施設の従事者、その両面の充実というものが重要だと思っている。</p> <p>それぞれの地域の保育園、幼稚園の活動がさらに充実していくことと、地域に住んでいる方たちのニーズを把握した取り組みを行うことにより、地域に浸透し、いろいろなことが、徐々に向上していくものだと考える。</p> <p>そういった観点からも、プランの内容の地域への周知徹底が必要だと思う。</p> <p>また、母親の就労希望が増えている現状について、母親個人が自分の人生を充実して、よりよいものにしていくために、自身の仕事を充実させたいと考える方が増えているのではないか。</p> <p>そのためには、保育環境が整っていくこと不可欠なで</p>	<p>地域において子どもを支えていくことは、大事だと考えているが、市としてそういう視点で広報を十分に行えていないと思う。</p> <p>地域の方々への周知について、今後の課題にさせていただきたい。</p>

<p>あると同時に、男性や、年配者を含めた地域住民の意識改革が、女性の就労や男性の子育ての参加促進に繋がっていくと考える。</p> <p>地域における子育て支援の推進のために、保育園や幼稚園と連携し、地域住民の意識改革をしていくことにより、佐世保に住みたいという人たちが増え、佐世保で子どもを産み育てたい人が、増えていくところに繋げることができるのではないかと考える。</p>	
<p>10年ぐらい前の子育て環境に比べると、子育てにかかる費用が低減され、子育てしやすくなっていると感じる。</p> <p>さらに、幼稚園と保育園が一体化したことによって、子どもも比較的預けやすい環境になったと思う。</p> <p>一方で、次々と無償化が進む状況に慣れている現状においては、他市と比べて、佐世保市の保育料は高いという認識になっている。</p> <p>しかし、無償化をさらに進めたとしても、出生数は増えないし、さらに子どもを持つと考える家庭は、どれだけののだろうか。</p> <p>他方、発達障がい児のいるご家庭においては、施設側の職員が足りないから受入れしてもらえないという方が相当数いる。</p> <p>また、病児保育にかかる費用が高いと思う。</p> <p>正規社員の方であれば病児保育料の自己負担額1日2,000円をどうにか工面すると思うが、パート従事者の方だと、休暇を所得した方がまだよいが、休むと働けなくなり困るという話を聞く。</p> <p>無償化に力を入れるよりも、そういった面を重視した方がよいのではないかと感じる。</p> <p>また、子育て支援が進んでいるにも関わらず、ご飯を食べない子が増えているのは、育児放棄ではないと思うが、食事を十分に与えない、保護者がいないという家庭がどんどん増えており、別の課題が増えているのではないかと感じる。</p>	<p>保育料の無償化は、自治体間での競争にもなっており、我々も決して好ましい状態であるとは思ってはいない。</p>
<p>無償化について、保護者に対し、無料になったのではなく、代わりに費用負担されている、ということをかき説明するのは施設側の課題である。</p>	

<p>子どもが小さい頃に、頻繁に体調を崩してしまうが、会社に対して子どもの看護のために休みを取ると連絡することが、母としてストレスとなるところがある。</p> <p>企業によっては、あと1日休ませれば完治するというタイミングのときには、同伴で勤務できるようになっている。</p> <p>このように、子育て世帯に対して支援をする企業が増えてくれば、支援の全体的な底上げ・少子化対策の推進ともなるのではないか。</p> <p>現在は、未婚率も上がっており、課題だと思うが、それよりも、1人目を出産した家庭が、2人目・3人目と続いて出産するための支援も、少子化対策に繋がっていくのではないか。</p> <p>また、取組を推進するために、企業への働きかけも必要ではないか。</p>	<p>共働き・子育ての支援については、施策1～4を横断した、包括的な取組の一つとして掲げ、課題として考えているところである。</p> <p>男性の育児参加は当然のこととして、仕事と子育ての両立のための企業等への働きかけは課題だと思っている。</p>
<p>きょうだい複数人いれば、代わる代わる体調を崩すこととなるが、会社に休暇を申し出ることを、なかなか言いつらいという方もいる。</p> <p>企業等のへ理解・働きかけも、存分に行っていただければ、佐世保自体も住みやすい町になってくるのではないか。</p>	
<p>保幼小連携について、継続・推進はもちろんのこと、シマンネリ化していると感じており、見直しが必要だと思う。</p>	<p>保幼小連携については、市としても問題意識を持っている。</p> <p>来年度は、それぞれの地域での結びつきを強めるような方向に、持っていきたいと考えており、検討中である。</p>
<p>保育人材の確保について、市として、どのような考えを持っているのか。</p>	<p>保育士確保について、市としても問題意識を持っている。</p> <p>この件については、先日、長崎短期大学で、同大学と周辺自治体との間で1回目の会合があり、また、2回目の会合として、同大学と保育所・認定こども園等、施設側との意見交換会があった。</p> <p>さらには、周辺自治体の議員との意見交換をする意向があり、行政・関係団体等とも、現状に対して、危機的な意識を持っている。</p> <p>しかし、効果的な対策をまだ見いだせていない。</p> <p>今後、会合を重ねる中で、何らかの方策を立てていきたいと思っている。</p> <p>具体的には、就職の際の支度金補助や、長年勤務された方に給付金を渡す等の経済的な支援もあるが、方策と</p>

	<p>しては、それ以外のところもあると伺っている。</p> <p>働きがいや、従事者の処遇改善の問題もある。</p> <p>さらに、施設における働き方改革、忙しさの解消等、トータル的に検討し、人材確保を進めていかなければならないと思っている。</p> <p>今後も引き続き、汗をかきたいと思っている。</p>
<p>(総括として)</p>	<p>今日いただいたご意見を伺い、改めて、子ども・子育て政策、少子化対策というのは難しいものだと思っている。</p> <p>平成元年に、合計特殊出生率1.57ショックとして、それまで最低であった、丙午の年の1.58を下回り、以降、少子化対策としてそれから30年来、さまざまな政策を実施してきた。</p> <p>主な政策としては経済的支援であった。</p> <p>経済的支援を行ってきた理由は、理想と思う子どもの数を実現できない理由を正すと、経済的支援にたどりつくこととなる。</p> <p>そのため、自治体としては、経済的支援を第一に取り組んできたところである。</p> <p>しかし30何年やってきて、効果がないという話になってきている。</p> <p>それに対して国は、昨年12月に制定した「こども未来戦略」の中で、少子化・人口減少について、3つの課題を整理している。</p> <p>①若い世代が結婚・子育てに対する将来展望を描けない</p> <p>②子育てしづらい社会環境や子育てと両立しにくい職場環境がある</p> <p>③子育ての経済的・精神的負担感や子育て世帯の不公平感が存在する</p> <p>これに対する施策の方向性・理念についても、3点を挙げている。</p> <p>(1) 若い世代の所得を増やす</p> <p>現在、国において、初任給・給与のベアアップの取組を実施している。</p> <p>(2) 社会全体の構造意識を変える</p> <p>父親の育児休業が当たり前になる社会を作る必要があり、国は、育児休業給付金について、父親の休暇取得時の手取りを実質100%にすることを考えている。</p> <p>ただし、給付日数が28日に限られており、十分な支援であるか疑念がある。</p> <p>(3) すべての子育て世帯の切れ目なく支援する</p>

	<p>経済的支援をはじめとして、市として取り組んでいくべきと考えている。</p> <p>以上、課題として3つ、方向性として3つということであるが、少子化・人口減少が解消できる具体策・明確な答えをいまだもって出てきてない。</p> <p>しかしながら我々としてはいかに、前向きに取り組んでいくべきかを考え、日々もがき苦しんでいる。</p> <p>今回、計画の策定を通じて、佐世保市の将来が幾らかでも明るくなるような形に取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>今日いただいた各委員からの意見は、参考とさせていただきながら、よりよい計画を作って参りたい。</p> <p>今後ともご協力をお願いしたい。</p>
議事(3)その他	
質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
	<p>本日の議事録については、取りまとめの上、送付する。</p> <p>分科会委員の選任や次回の子ども・子育て会議の日程調整については、改めてお知らせしていく。</p>